

あまくさ かいうん 天草の海運と ふなの れきし 船乗りの歴史

船乗りの歴史

1281年

もうこうしゅうらいえことば まきもの おおやの たねやす おとうと
蒙古襲来絵詞という巻物には、大矢野種保と弟の
たねむら ふね うえ たたか
種村が船の上で戦うすがたがえがかれています。

1545年

おおやの とうせん く
大矢野に唐船が来る
かみあまくさ おさ おおやのし うみ ちゅうごく
上天草を治めていた大矢野氏は海をこえ、中国と
こうりゅう とうせん ちゅうごく ふね
交流していました。*唐船…中国の船のこと

1580~1584年

うみ うえ たたか
海の上での戦い
くん あいだ くまもと あ
2つ軍の間にあった熊本でにらみ合いがつつく
なまばらはんとう おさ ありまはるのぶ なんぶくん
なか、島原半島を治めていた有馬晴信が南部軍に
たす もと たたか お
助けを求めたことから戦いが起こりました。
あまくさ こうぞく なんぶくん ひき
天草のいろいろな豪族は南部軍を率いていた
しまづし しじ うみ うえ たたか
島津氏の指示をうけ、海の上で戦いました。
こうぞく ちほう おお とみ せいりよく いちぞく
*豪族…ある地方において大きな富や勢力をもつ一族

1592~1597年

ひてよしちょうせんしゅつべい
秀吉朝鮮出兵
あまくさ にんしゅう とうじあまくさ す おおやのし あまくさし
天草5人衆(当時天草に住んでいた大矢野氏、天草氏、
すもとし しきし ぶしょう こにしゆきさだ したが ちようせん しゅつべい
栖本氏、志岐氏)は武将 小西行長に従い朝鮮へ出兵
しました。

1800年ごろ

まつしまかいうん
松島海運のはじまり
あむら あいつ ながうら
阿村、合津、永浦などには
はや しゅうへんちいき
早くから周辺地域とものの
こう かいうんぎょう
交かんなどで海運業がさかんになりました。
とく あむら かいせん しお つ た さか
特に阿村の廻船は塩の積み出して栄えました。
かいせん みなと みなと かもつ じょうきやく はこ ふね
*廻船…港から港へ貨物や乗客を運ぶ船



1852~1560年

ひごのくに しもましきくん すながわしんち いま おがわまち こうじ
肥後国 下益城郡砂川新地(今の小川町)の工事のため、
あまくさせきざい しゅつ あむらかいせん かつ
天草石材のはん出に阿村廻船が活やくしました。
こうじ あむら にん ひとびと はたら
この工事に、阿村から300人もの人々が働きにでかけて
いました。



1887年

あむらかいうん ひと
阿村海運をはじめた人
いわおつぞうし はんせん にゅうしゅ
岩尾鉄造氏が帆船を入手し、
けんない きたきゅうしゅうほうめん しんしゅつ
県内はもちろん北九州方面まで進出しました。
はんせん ほ は ほう かぜ りよう はし ふね
*帆船…帆を張って、帆に受けた風を利用して走る船

1921年

せんいんけいせい
船員育成のはじまり
おお ふね きよ そうじゅう
とても大きな船はめん許がないと操縦することができま
せんでした。そのため、講習会をひらき、航海士や機関士
などのめん許をとらせました。
ねん ながのとよかずし はし きはんせん と い
また、1975年には永野豊一氏が初めて機帆船を取り入れ
たのが、阿村の機帆船時代のはじまりでした。
きはんせん そな こがた はんせん
*機帆船…エンジンを備えた小型の帆船。

1935年

あむらせんぱくかいうんくみあい せつりつ
阿村船舶海運組合の設立
ぜんごく なか はや あむらせんぱくかいうんくみあい せつりつ
全国の中でも早くに阿村船舶海運組合が設立しました。
ふね かず はんせん きはんせん ばんおお ふね
船の数は帆船80せき、機帆船70せき。1番大きな船は
160トンもありました。
げんざい かみあまくさし かいうんぎょうしゃ しゃ せんぱくすう
現在の上天草市の海運業者101社、船舶数148せき、
せんいんすう にん にほん かいうん ゆうめい ちいき
船員数887人となっていて、日本でも海運で有名な地域と
なっています。



あむらわん と きはんせん
*阿村湾に停まる機帆船

うみ かこ あまくさ むかし ふね の
海に囲まれた天草は、昔から船に乗って、
うみ うえ たたか
海の上で戦いをしていたことがわかったね。
いま う ふね の こ
今もそれを受けつがれて、船に乗り込み
たくさんのものを運んでいるんだ！
そこにとどり着くまでには、
しお ゆそう きはんせん どうにゅう
塩の輸送や機帆船の導入、
たくさんの歴史が積み重なって
いま ないこうかいうん
今の内航海運があるんだね！

